

ともに学び、ともに生きる



現在は、急激な変化の時代にあり、将来どのような社会になっているのかを予測することが難しい状況にあります。このような状況の下、持続可能な社会の創り手を育成し、一人ひとりが幸せや生きがいを感じて、周りの人々や地域にも思いめぐらし、誰もが豊かさを感じられる社会を実現するには、教育の果たす役割がますます重要になっています。

第4期市川市教育振興基本計画は、教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、本市の教育に関わる児童生徒、教職員、保護者、市民等、様々な方々の思いを汲み、今後5年間に本市教育の進むべき方向性を明らかにしました。

子どもたちは誰もが可能性に満ち溢れています。変わりゆく時代に合わせて、学校での子どもたちの学びも変わっていきます。子どもたちの心に火を灯し、自ら学び、自分らしい生き方を実現していけるよう、何を学ぶかだけでなく、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めて行く中で、どのように学ぶか、何ができるようになるかも重視して、子どもたちの生きる力を確実に育ててまいります。

社会は様々な場面で多様化が進み、異なる生き方や価値観が共存しています。家庭・学校・地域のつながりの中で、すべての子どもの可能性を最大限に伸ばす教育を推進し、人間関係を築く力や自己肯定感の向上を図ります。

本市では全市立学校・園において、学校運営協議会、地域学校協働本部を設置し、地域と学校が連携協働して子どもたちの成長を見守り、支える土壌があります。子どもの教育を進める上でこれほど心強いことはありません。

今後も家庭・学校・地域が連携して、地域ぐるみで子どもたちの成長を支えられるよう、教育委員会に期待されている役割を十分に果たしてまいりたいと考えております。

人は人とつながり、ともに学び、ともに働き、ともに生きることで成長し、喜びを分かち合うことができます。将来にわたって、世代を超え、地域全体で教育に関わる「つなぐ教育」を充実・発展させてまいります。

最後に、本計画の策定にご協力いただいた多くの皆様に心から感謝を申し上げるとともに、本市教育の目指す姿の実現に向けて、市民の皆様からのご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和6年1月 市川市教育委員会教育長
田中 庸恵

目次

■ 計画の策定にあたって

1	計画策定の趣旨	2
2	計画の位置づけ	3
3	計画の対象	3
4	計画の期間	3
5	社会状況の変化と取り組むべき課題	4
6	市川市の教育を取り巻く現状と課題	5

■ 計画の体系

1	計画の体系	10
2	前 市川市教育振興基本計画を通しての課題・成果と方向性	12
3	市川の教育の目指す姿	15
4	基本理念	17
5	基本的な3つの考え方	19
6	方針	21
7	方針1 子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進	23
8	方針2 学びの質の向上と学びの保障の実現	38
9	方針3 とともに支え合う学びの環境整備	50

■ 計画の推進

1	検証改善サイクル(PDCAサイクル)の実践	60
2	新たな教育上の課題への対応	60

■ 資料編

1	主な事業・取組一覧	62
2	市川市の教育を取り巻く現状	73
3	策定経過	84
4	市川市教育振興審議会	85